



Web連載

注目！ がん看護における
最新エビデンス



中西絵里香
東北大学大学院 医学系研究科
 保健学専攻 緩和ケア看護学分野
 看護師 / 保健師 / 公衆衛生学修士



宮下光令 教授
東北大学大学院 医学系研究科
 保健学専攻 緩和ケア看護学分野

第54回

病院で死を迎えるがん患者に対する ケアの質は高いが、 情報のニーズは満たされていない： 世界7カ国の遺族調査結果

Haugen, D. F., Hufthammer, K. O., Gerlach, C., Sigurdardottir, K., Hansen, M. I. T., Ting, G., Tripodoro, V. A., Goldraj, G., Yanneo, E. G., Leppert, W., Wolszczak, K., Zambon, L., Passarini, J. N., Saad, I. A. B., Weber, M., Ellershaw, J., Mayland, C. R., & ERANet-LAC CODE Project Group. (2021). Good Quality Care for Cancer Patients Dying in Hospitals, but Information Needs Unmet: Bereaved Relatives' Survey within Seven Countries. *The Oncologist*, 26(7), e1273 - e1284.
<https://doi.org/10.1002/onco.13837>

終末期の患者と家族のQuality of lifeを向上するには、提供されたケアの質を適切な尺度で評価することが重要です。2021年にJournal of Pain and Symptom Managementに投稿された世界の「死の質」ランキングにおいて、日本は81カ国のうち第24位という結果でした¹⁾。ただし、ここでの「死の質」とは、ケアを受けた患者や遺族が評価したものではなく、各国を代表とする数人の専門家の意見によるものです。

今回紹介する研究は、南米（アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル）と欧州（イギリス、ドイツ、ノルウェー、ポーランド）の計7カ国で行った遺族調査結果について、2021年にThe Oncologistに投稿された国際比較研究です。がんで亡くなった患者の遺族に、「臨死期に受けたケアの質を測る国際共通で評価する尺度（International version of the Care Of the Dying Evaluation: i-CODE）」に答えていただき、そ

の結果の一部をまとめたものです。

i-CODEとは、患者が亡くなる前の2日間の臨死期と死亡直後に焦点を当て、患者と周りの近親者が医療者から受けたケアについて評価する尺度です。2019年に前述の7カ国で統一された尺度となり²⁾、これまで9カ国語に翻訳されています。i-CODEの質問内容を表1に示します。また、各国で調査対象となった病院と調査方法についての詳細は、表2を参照してください。

表1 i-CODEの質問内容

次の7部, 合計42の質問で構成されている。

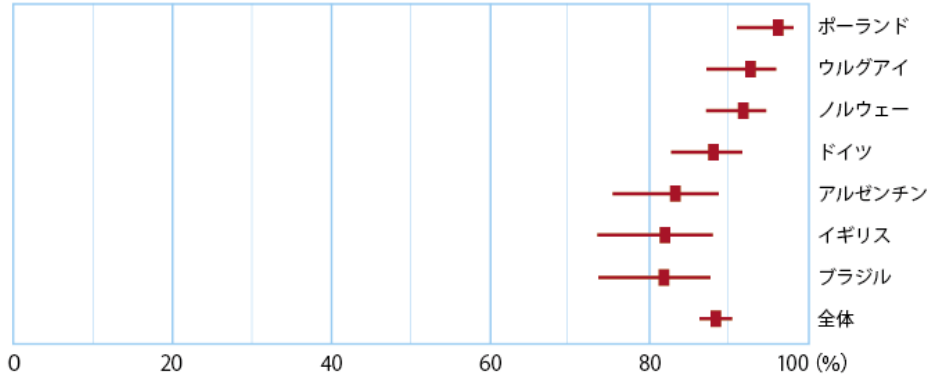
- A : 医師, 看護師, 介護士から受けたケア
- B : 痛みとその他の症状に対するコントロール
- C : 医療チームとのコミュニケーション
- D : 医療チームによる心のサポート・スピリチュアルな支援
- E : 患者が死亡するまでの状況
- F : 全体的な感想
- G : 患者・遺族背景に関する情報

表2 各国の情報

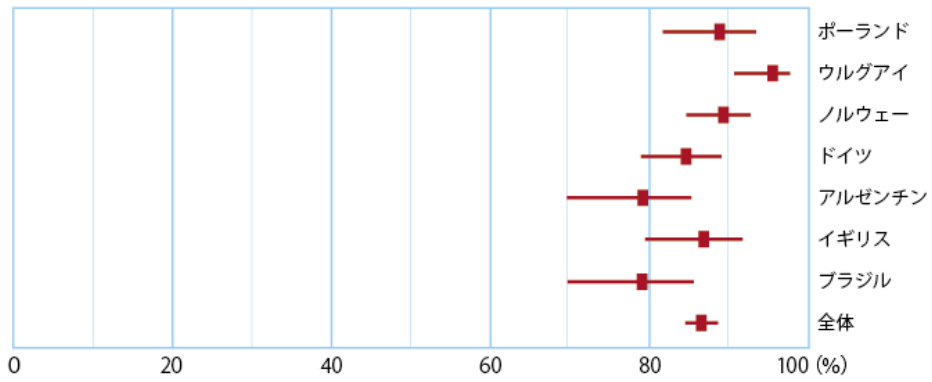
国名	調査対象	調査方法
アルゼンチン	大学病院 3 施設 (内科・外科・腫瘍内科病棟, ICU)	電話または対面インタビュー 電子メールによるアンケート調査
イギリス	大学病院 2 施設 (内科・外科病棟, 救急病棟, ICU, PCU)	郵送またはオンライン調査
ウルグアイ	民間病院 2 施設 (内科・外科病棟, 救急病棟)	電話インタビュー 対面インタビュー
ドイツ	大学病院 2 施設 (内科・外科・腫瘍内科病棟, ICU, PCU)	郵送調査
ブラジル	大学病院 2 施設 (内科・外科病棟, 救急病棟, ICU)	対面インタビュー 電話・メールによるインタビュー
ポーランド	公立病院 4 施設 (呼吸器科・内科・外科病棟, PCU)	タブレット端末を用いたインタビュー調査
ノルウェー	大学病院 3 施設, 急性期病院 4 施設 (内科・外科・腫瘍内科病棟, PCU)	郵送調査

調査結果は、次のとおりです。

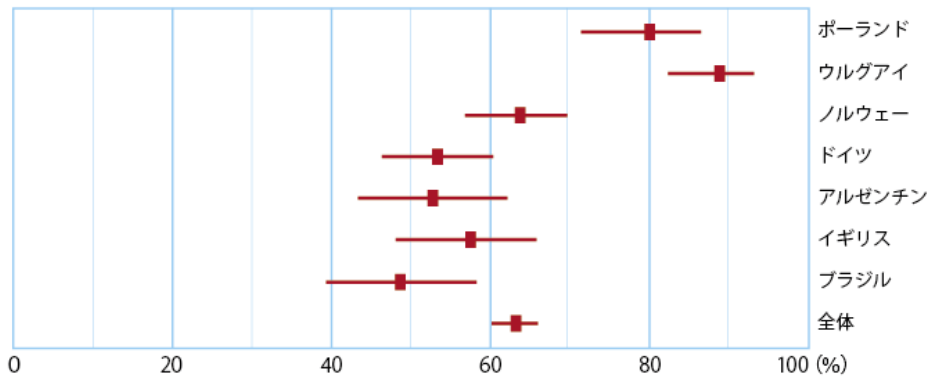
全体的に見て、患者が亡くなる前の2日間に、
あなたは十分なサポートを受けていたと思いますか？



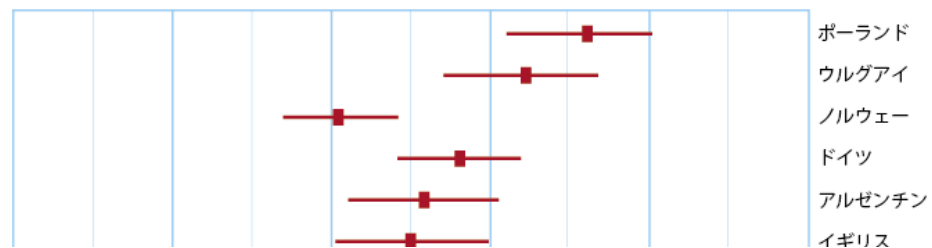
あなたは、患者があと数日程度で
亡くなるという説明を受けましたか？



医療チームは、患者が亡くなる数日前に、
これから患者に生じるであろう身体や症状の変化についてあなたに説明しましたか？



亡くなる前の2日間に、医療チームは点滴による水分補給が適切かどうかについて、
あなたと話し合いましたか？



質問内容	肯定的な回答の割合 (%)
患者が亡くなる前の2日間に、十分なサポートを受けていたと答えた遺族は全体で	89%
7カ国すべてで80%以上の肯定的な回答でした。コミュニケーションに関する	89%
質問については、あと数日程度で亡くなるという説明を受けたと答えた遺族は全体	87%
で87%でした。しかし、患者が亡くなる数日前にこれから生じるであろう身体や症	87%
状の変化について説明を受けたと答えた遺族は、全体で63%	63%
、点滴による水分補給についての話し合いをしたと答えた遺族は全体で55%	55%

ブラジル

患者が亡くなる前の2日間に、十分なサポートを受けていたと答えた遺族は全体で89%、7カ国すべてで80%以上の肯定的な回答でした。コミュニケーションに関する質問については、あと数日程度で亡くなるという説明を受けたと答えた遺族は全体で87%でした。しかし、患者が亡くなる数日前にこれから生じるであろう身体や症状の変化について説明を受けたと答えた遺族は、全体で63%、点滴による水分補給についての話し合いをしたと答えた遺族は全体で55%という結果となりました。情報やコミュニケーションのニーズの観点からは、ケアが不足していると感じていることが分かりました。

国際比較研究を行う目的として、各国で患者に提供されているケアの良い点と改善点を明らかにすることが挙げられます。しかしこの研究は、各国が恣意的に選択した3~4施設のデータのみを使用しているため、それぞれの国全体の状況についての結果を表していません。例えば、前述の「死の質」ランキングで第33位のウルグアイの結果は、ほかの6カ国と比較して良い結果でした。チャップレンが毎日患者を訪問するなど、ケアを熱心に行っていた病院で亡くなった遺族を対象としていたようです。

本来、国別の比較を行うには、調査施設の基準を統一し、国全体からランダムにサンプリングするなどの代表性を確保することが必要です。今回の調査は、そのような代表性の確保の必要性、換言すれば国際比較の難しさが明らかになったとも言えそうです。そのような難しさがあるとしても、国際的に統一された評価尺度が作成され、多国間の比較研究が行われたことは、今後に向けての第一歩になると思われます。世界の人々が人生の最期に質の良いケアを受けるためには、世界中の研究者が協力していくことが望まれます。

引用・参考文献

- 1) Finkelstein, E. A., Bhadelia, A., Goh, C., Baid, D., Singh, R., Bhatnagar, S., & Connor, S. R. (2021). Cross Country Comparison of Expert Assessments of the Quality of Death and Dying 2021. *Journal of Pain and Symptom Management*.
<https://doi.org/10.1016/j.jpainsymman.2021.12.015>
- 2) Mayland, C. R., Gerlach, C., Sigurdardottir, K., Hansen, M. I. T., Leppert, W., Stachowiak, A., Krajewska, M., Garcia-Yanneo, E., Tripodoro, V. A., Goldraij, G., Weber, M., Zambon, L., Passarini, J. N., Saad, I. B., Ellershaw, J., & Haugen, D. F. (2019). Assessing quality of care for the dying from the bereaved relatives' perspective: Using pre-testing survey methods across seven countries to develop an international outcome measure. *Palliative Medicine*, 33(3), 357 - 368.
<https://doi.org/10.1177/0269216318818299>

なかにしえりか：2006年カリフォルニア州立大学サクラメント校看護学科卒業、2021年聖路加国際大学大学院公衆衛生研究科卒業、日本とアメリカでさまざまな臨床経験を積む。現在、東北大学大学院博士課程、高村内科クリニックで非常勤看護師として外国人の患者のケアを行っている。

みやしたみつのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業、臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

この商品の内容に関するお問い合わせは[仙台事務所](#)
お急ぎの場合は、TEL (022) 261-7660におかけください。
※土・日・祝は対応しておりません。

ご注文に関する内容・変更・追加などのお問い合わせは、
お客様センターフリーダイヤル0120-057671に
おかけください。

※本サービスは事情により予告なく終了することがございます。
あらかじめご了承ください。

[ページトップに戻る](#)



Copyright© nissoken. All Rights Reserved.

お客様センターフリーダイヤル 0120-057671